

[株主のみなさまへ]

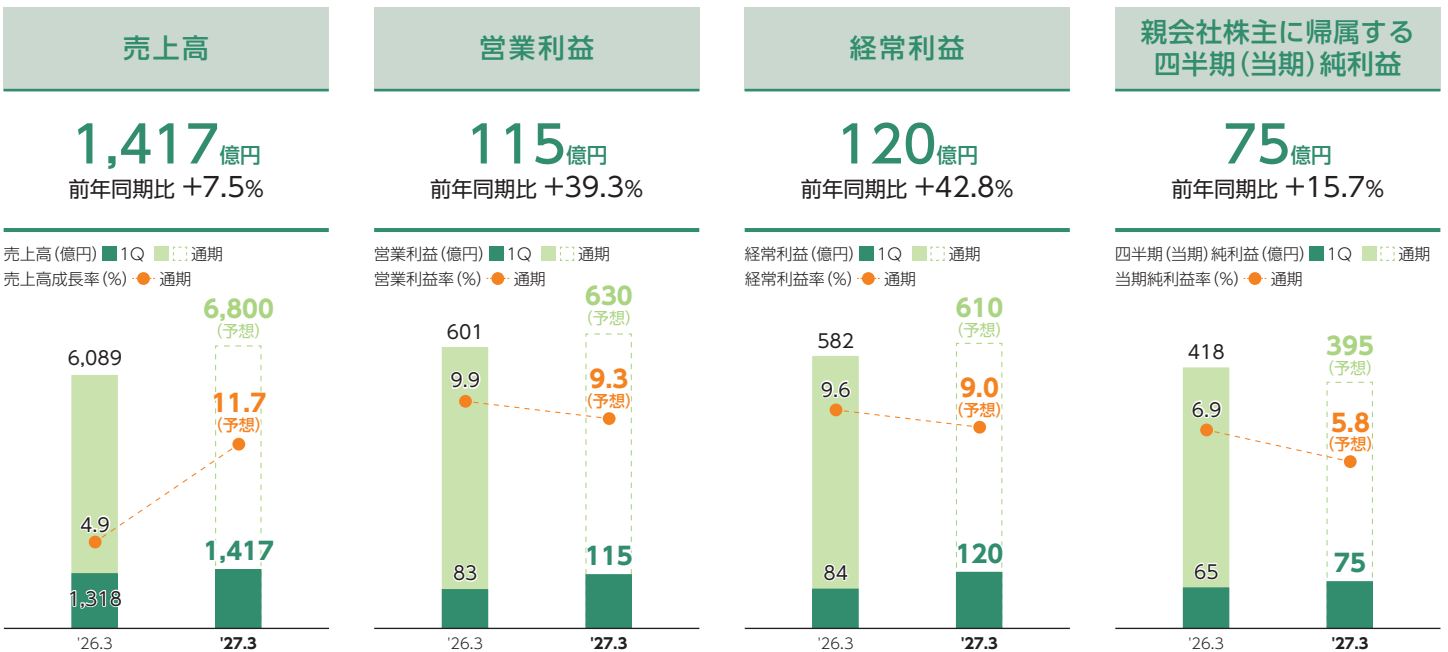
第23期 第1四半期 決算のご報告

2026年4月1日から6月30日まで | 証券コード:6674



1st Quarter Digest

連結業績ハイライト



売上高・営業利益・経常利益の増加要因

- 売上高および各段階利益の増加要因: モビリティ分野である、鉛蓄電池(国内・海外)およびリチウムイオン電池において販売物量が増加したことに加え、為替の影響もあり売上高および各段階利益とも過去最高を更新。

Full-year Forecast

通期予想

第23期(2027年3月期) 連結業績予想

第23期(2027年3月期) 配当予想

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	中間	期末	合計
6,800億円 前年同期比 +11.7%	630億円 前年同期比 +4.7%	610億円 前年同期比 +4.8%	395億円 前年同期比 △5.6%	30.00円/株	68.00円/株	98.00円/株

ポイント

- セグメントごとに事業環境は異なるものの、国内外の鉛蓄電池事業が想定以上に好調に推移していることを受け、売上高および各段階利益の業績予想を上方修正しました。

Top Message

社長メッセージ

売上高および各段階利益のいずれも第1四半期としては、過去最高となりました。



代表取締役
取締役社長

阿部 貴志

世界経済は、AI関連需要の拡大や米国経済の底堅い成長を背景に緩やかな持ち直しが続いたものの、中東情勢をはじめとする地政学リスクの高まりや、米国の通商政策の不確実性、金融資本市場の変動等、先行きの不透明な状況が続いています。

このような経済状況の中、当社グループでは、主としてモビリティ事業の販売増加により、当第1四半期の売上高は、1,417億34百万円と前第1四半期に比べて98億55百万円増加(+7.5%)しました。これに伴い、営業利益は115億78百万円と前第1四半期に比べて32億64百万円増加(+39.3%)しました。経常利益は営業利益の増加により、120億99百万円と前第1四半期に比べて36億25百万円増加(+42.8%)しました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、75億58百万円と前第1四半期に比べて10億27百万円増加(+15.7%)しました。

当第1四半期の状況を踏まえ、通期業績予想を修正いたしました。売上高6,800億円、営業利益630億円、経常利益610億円、親会社株主に帰属する当期純利益395億円と、2026年度の業績予想は売上高および各段階利益ともに過去最高値を見込んでいます。



特集

京都事業所の日本庭園「^{りょく とう えん}緑橙苑」特集

当社京都事業所の日本庭園「**緑橙苑**」が環境省により「**自然共生サイト**※」に認定されました！
当社では、人と社会と地球環境への貢献を目標に生物多様性保全を推進しています。

1 緑橙苑とは？

GSユアサ京都事業所内にあり、本事業所の創設と同時期の1943年に造園された歴史ある日本庭園です。

敷地内には来賓をおもてなしする茶室や、社員が安全祈願をする稻荷神社が併設されています。



詳しい内容はこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/389>



2 伝統文化継承への貢献 上賀茂神社へのフタバアオイの奉納

当社では2021年度から継続して京都の文化を支える日本固有の植物であるフタバアオイを敷地内で育成し、葵祭のため上賀茂神社に奉納する活動を通じて伝統文化継承に貢献しています。



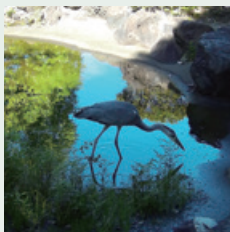
詳しい内容はこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/172>



3 緑橙苑に生息する生き物たち

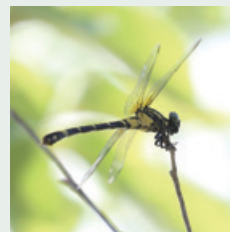
緑橙苑では2025年に実施した生物調査により、準絶滅危惧種を含む236種もの動植物が生息し、在来種を中心とした健全な生態系が維持されていることが確認されています。



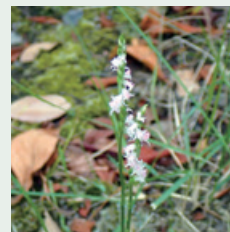
エサを探すアオサギ



巣材を運ぶシジュウカラ



オナガサナエ

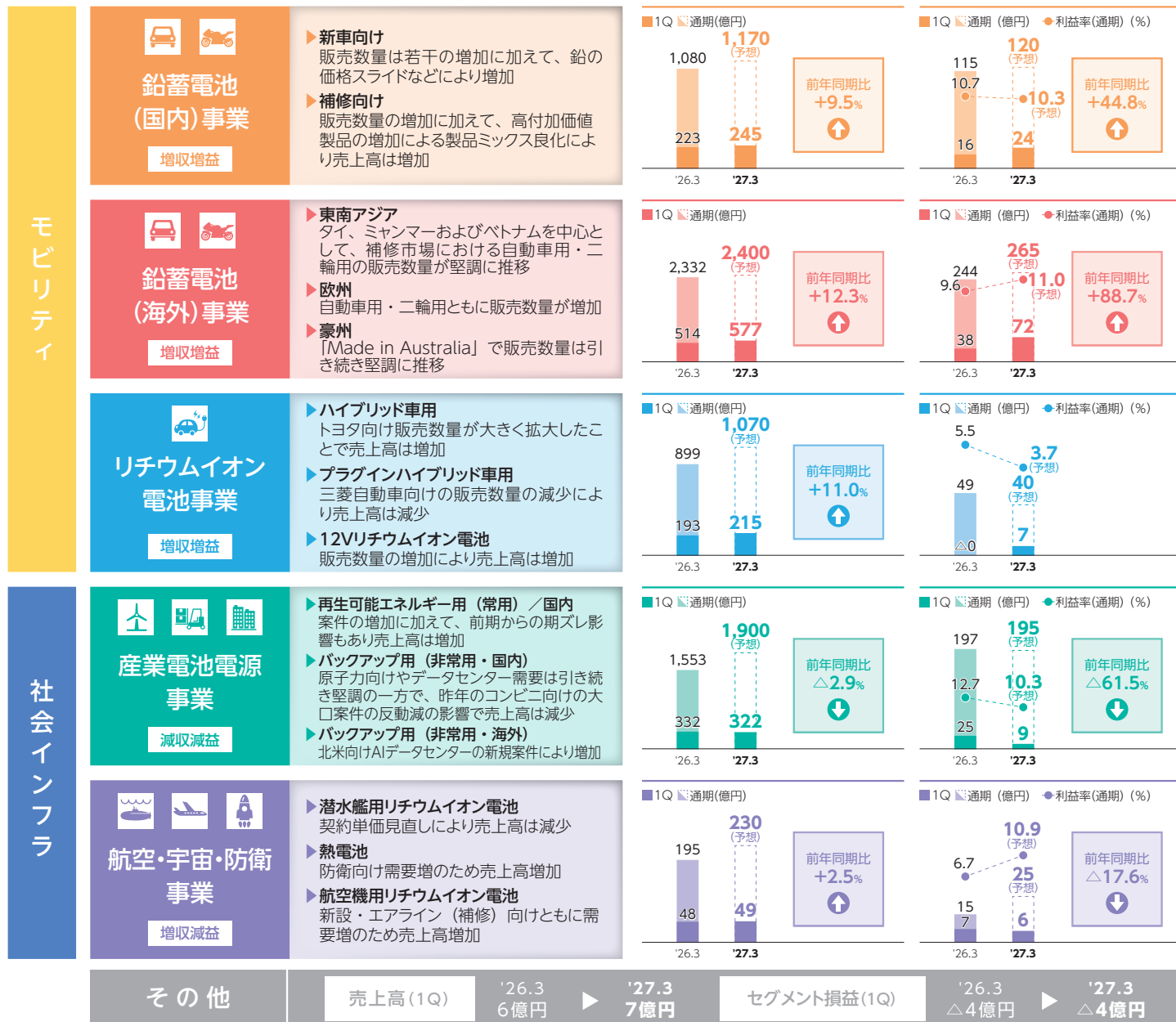


ネジバナ

※民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている区域を国(環境省)が認定する制度

Segment Results

セグメント別連結業績



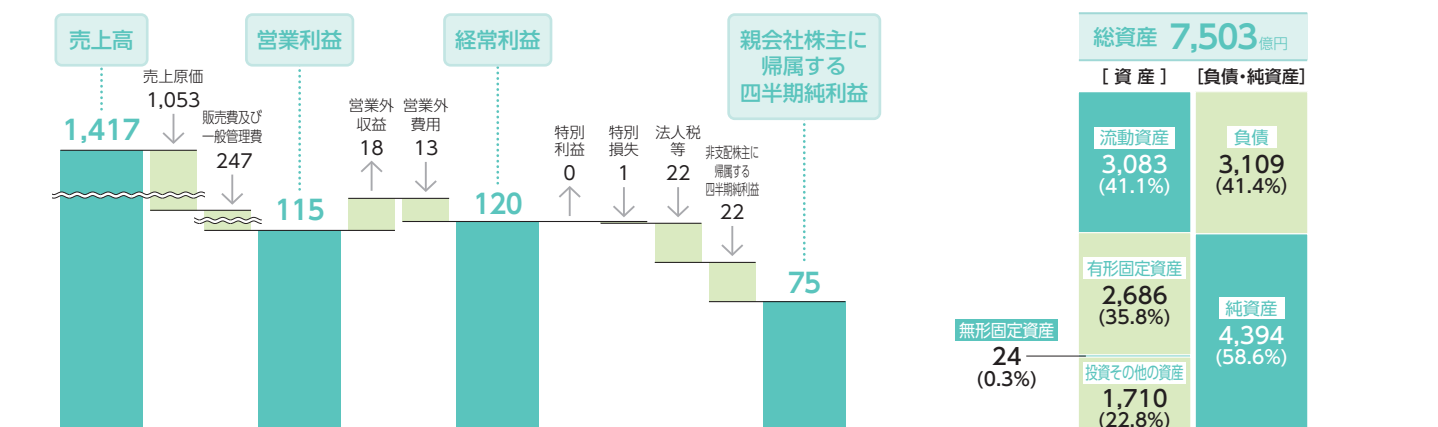
(注1) 従来、当社グループの報告セグメントの区分は「自動車電池国内」、「自動車電池海外」、「産業電池電源」、「車載用リチウムイオン電池」、「その他」の5セグメントとしておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「鉛蓄電池(国内)」、「鉛蓄電池(海外)」、「リチウムイオン電池」、「産業電池電源」、「航空・宇宙・防衛」、「その他」の6セグメントに変更することいたしました。
この変更は、従来「その他」に含まれていた「航空・宇宙・防衛」事業について、重点投資領域の1つであるため、報告セグメントとして独立させることで情報開示レベルを向上させるとともに、従来「自動車電池海外」に一部含まれていた産業用海外事業を社会インフラ分野の「産業電池電源」へ組み替えることで、事業戦略と収益構造を明確化するためのものです。
(注2) '26.3期の実績は、変更後の報告セグメントにより記載しています。

Financial Statement

財務諸表

連結損益計算書 [当第1四半期] (億円)

連結貸借対照表 [当第1四半期末] (億円)



TOPICS

1

NEDO「革新型蓄電池技術開発・高度解析」事業に、 「次世代ナトリウムイオン電池の技術開発」が採択され、 東京理科大ほか、産学官連携で開発を開始 ～次世代ナトリウムイオン電池(高安全・低コスト型／定置用)の開発を加速～

(株)GSユアサ(以下、GSユアサ)は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「革新型蓄電池技術開発・高度解析」事業(以下、本事業)における「次世代ナトリウムイオン電池の技術開発」について、学校法人東京理科大学を代表機関として、産学官連携で開発を行います。

本事業は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて将来の蓄電池需要の増大が見込まれる中で、資源調達リスクが低減され、かつ高い性能を有する革新型電池の実用化・市場投入の加速を目的とし、2030年代半ばの実用化を目指します。

GSユアサは、これまで独自に、従来のリチウム系蓄電池に代替する性能を備えたナトリウムイオン電池の開発に取り組んでまいりました。本事業では、産学官連携で開発を加速させ、

次世代ナトリウムイオン電池について早期の実用化を目指すとともに技術開発を通じて、カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

本プロジェクトにおけるGSユアサの開発項目

- ① 次世代ナトリウムイオン電池(セル)の設計検証
- ② リチウムイオン電池設備*を用いた次世代ナトリウムイオン電池(セル)の試作実証

※GSユアサが保有するリチウムイオン電池試作設備(小型角形電池用)

2026年7月9日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/412>



TOPICS

2

GSユアサが新型車載用リチウムイオン電池を開発 ～トヨタ自動車 新型RAV4に採用～

GSユアサが新たに開発した車載用リチウムイオン電池「EHW4GA」が、トヨタ自動車株式会社の新型RAV4の海外向けハイブリッド仕様車に採用されました。

「EHW4GA」のセル・モジュールは、GSユアサグループの(株)ブルーエナジー(以下、ブルーエナジー)が生産しています。セルは従来のブルーエナジー量産製品と同等の寸法、質量ながら、10%以上の高エネルギー化を達成し、ハイブリッドシステムに求められる入出力特性も10%以上向上、総合的な電池特性を最適化しました。加えて、モジュールはダイカストケースを新規採用したことで、部品点数削減や軽量化を達成しました。



EHW4GAセルとモジュール



RAV4

2026年3月25日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/385>



お知らせ

2026年6月26日(金)に 第22期定時株主総会を 開催しました

株主総会当日の資料や動画をWEBサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。



▶ 詳細はこちら

<https://ir.gs-yuasa.com/jp/ir/stockinfo/meeting.html>



会社概要 (2026年6月30日現在)

商 号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事 業 目 的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設 立	2004年4月1日
資 本 金	52,841百万円
本 社 所 在 地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホ ー ム ペ ー ジ	https://www.gs-yuasa.com/jp/
上 場 金 融 商 品 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場